

Culture of SAPPORO/HOKKAIDO/JAPAN
Since 2004 

TAKE FREE
October, 2011

Pilat

magazine



戦う

THE ★ 米騒動



wow retro sapporo
LOVE FOREVER

時代を超えて出逢う、この世にたったひとつしかないもの。
 心地よく包み込んでくれる、どこか懐かしくて身近な存在。
 永遠に愛され続ける、古着の魅力。

photograph Hideki Akita (tootootoo)
 design EXTRACT

[wow retro sapporo]
 address 北海道札幌市中央区南2条西1丁目
 TSUBAKI HALL 1F
 telephone 011-271-2127
 website <http://wowretro.com>



『ワウレトロ』スタッフが“ブリティッシュ・トラッド”をテーマにスタイリングを披露。
 古着を取り入れる感性と遊び心、着まわしのテクニックに注目です。

小松 未奈 / 『wow retro sapporo』スタッフ

>古着の魅力について聞かせてください。

現代では決して再現できない、その時代特有のデザインや雰囲気など、一点一点に独特な色合いがあるところに魅力を感じます。そしてなんとと言っても、もう二度と出会えないであろう“一点モノ”というのも個人的に特別感を感じます。

>古着に関して自分ならではのこだわりがあれば聞かせてください。

気になったものはまず着てみることで、そしてクタクタになるまで長く愛用することですね。大げさに言うところ、穴が空くくらいまで着て、また直して着る、そのくらい大切に着ています。

>自身で所有されている古着の中で特別な一着を教えてください。

特にヴィンテージアイテムではないのですが、ハンドメイドの“ベビーピンクのワンピース”です。これはわたし自身がまだ『ワウレトロ』のお客さんとして通っていた頃、当時のスタッフの方にお勧めいただいた一点で、専門学校の卒業式の二次会で着るために購入したものです。当時、ピンクなんて着たことがなく、ましてやレースがあしらわれているワンピースを一枚で着るのが恥ずかしかった思い出があります(笑)。でも、とても気に入って購入した一着で、普段着として着る機会は少ないのですが、そんな思い出を含めて特別な一点です。

>古着選びのコツ、また着こなすためのポイントを教えてください。

古着選びのコツは、お店の隅々まで探してみることでしょか...(笑)。あとはサイズ感、試着は必須です。そして着こなすポイントは...、「どう着こなせば良いかわからない」「難しそう...」などの声を耳にする機会も多いのですが、古着自体のデザインは至ってシンプルなんです。色味が変わっていたり、柄が独特だったりするところがあるのですが、そんなに難しく考えなくてもいいと思います。普段履いているデニムやスカートだったり、“いつも”の日常着に一点スパイスとして足してみる感覚でしょうか。古着＝重ね着というイメージを持たれている方も多いようですが、あえて“一枚で着る”くらいの方がシンプルで素敵ですし、コーディネートの中で古着が活きてくる気がします。

>古着で持っているオススメ商品があれば教えてください。

やはり、ミリタリーやワークのアイテムでしょうか。着る服を選ばないシンプルなデザインと丈夫な素材感は、長く愛用できること間違いなしです。スリーピング用として製造されたミリタリーのシャツや、季節の変わりめに重宝するコットン地のワークジャケットやコートなども持っているとかかなり使えるアイテムです。



1.

ロングニットカーディガン/¥13,440-
 ホワイトレースブラウス/¥6,195-
 キルトスカート/¥8,295-
 ロングブーツ/¥18,690-
 ツイードキャップ/¥6,195-
 (すべてwow retro sapporo)
 「チェックのキルトスカートにブラウス、ツイードのキャップでトラッドに。ざっくりと女性らしいロングのニットカーディガンを、全体の外しアイテムとして合わせたスタイル。」

2.

フレンチワークジャケット (used) / ¥8,295-
 ボーダーバスケット (used) / ¥5,775-
 キルトスカート (used) / ¥8,295-
 フレンチアーミー・サービスシューズ (used) / ¥13,440-
 ツイードキャップ (used) / ¥6,195-
 (すべてwow retro sapporo)
 「チェックにボーダーの柄と柄を合わせブリティッシュな雰囲気。ワークジャケットとシューズで甘さを抑えたスタイルになっています。」

3.

ネルシャツ (used) / ¥4,410-
 コーデュロイパンツ (used) / ¥10,290-
 パラブーツ“モルトゴールド” / ¥58,800-
 (ARCH HERITAGE WOMENS)
 ベルト (used) / ¥5,145-
 ファーカラー (used) / ¥8,295-
 (すべてwow retro sapporo)
 「チェック柄のニットワンピースを主役に女性らしくまとめたスタイル。ファーカラーやベルト、ネックレスなどを小物を取り入れ、全体としてさみしくないように気を配りました。」

4.

ニットワンピース (used) / ¥13,440-
 ブーツ (used) / ¥18,690-
 ベルト (used) / ¥3,045-
 ロザリオネックレス (antique) / ¥15,540-
 (すべてwow retro sapporo)
 「チェック柄のニットワンピースを主役に女性らしくまとめたスタイル。ファーカラーやベルト、ネックレスなどを小物を取り入れ、全体としてさみしくないように気を配りました。」

5.

トレンチコート (used) / ¥13,440-
 ドレスシャツ (vintage) / ¥15,540-
 イタリアアーミー・ショートパンツ (used) / ¥6,195-
 ブーツ (used) / ¥18,690-
 ショール (used) / ¥5,145-
 ツイードキャップ (used) / ¥6,195-
 (すべてwow retro sapporo)
 「ベージュのトレンチコートを主役にハンサムな着こなしに。色はぼやけないように、オレンジ系ブラウンのチェックのショールを全体の引き締め役として取り入れています。」

6.

ドレスシャツ (vintage) / ¥15,540-
 スーツパンツ (used) / ¥13,440-
 パンプス (used) / ¥8,295-
 サスペンダー (used) / ¥3,045-
 (すべてwow retro sapporo)
 「チェックのパンツとシャツのシンプルなトラッドスタイル。足元にはパンプスを含ませさりげなく女性らしさをブラしました。」

7.

タイブラウス (used) / ¥6,195-
 ウールスカート (used) / ¥7,245-
 ブーツ (used) / ¥18,690-
 ファーカラー (used) / ¥8,295-
 (すべてwow retro sapporo)
 「軽い素材のタイブラウスにスカートのレディライクなスタイル。甘くなりすぎないように合わせたフラットブーツがポイントになっています。」

古着を自由に楽しむ、それぞれ個性的なユーズド・ミックス・スタイル。
独創的なアイテムは女性の美しさをより一層引き立ててくれる。



ケーブル編みブルオーバーニット (vintage) / L.L.Bean / ¥13,440-
ユーロ・Levi's 501 (used) / ¥13,440-
ダービーブーツ / Sanders / ¥39,900- (JUILLET)



キッズサイズシャツ (used) / Wrangler / ¥4,000位
スカート / OMNIGOD / ¥13,650-
シューズ / CHIE MIHARA / ¥51,450-

傳田 梓乃 / 『JUILLET』スタッフ

>古着の魅力について聞かせてください。

新品では味わうことのできない、その1点に宿した時代の空気感や風合いを楽しめる、それが古着の魅力だと思います。

>古着に関して自分ならではのこだわりがあれば聞かせてください。

コンディションやサイズ感は重視しています。

>自身で所有されている古着の中で特別な一着を教えてください。

今日着ているニットです。"古着"と"新品"という枠を超えて、良い物は良いと改めて実感できた一着で、これからどんな古着との出会いが待っているのか楽しみになった、そんな一着でもあります。

>古着選びのコツ、また着こなしためのポイントを教えてください。

まずは試着をしてサイズ感を確かめるのが1番です。ある程度でも、自分の細かいサイズを把握しておく選びやすくなりますし、自然と着こなしやすくなると思います。

>古着で持っていると便利なおすすめ商品があれば教えてください。

"グランバシャツ"は一枚持っているといいと思います。合わせる小物ひとつで様々な表情を見せてくれるので、コーディネートに取り入れやすいアイテムです。

『JUILLET』
address 北海道札幌市中央区北5条西2丁目
札幌ステラプレイスEAST-B1F
telephone 011-209-5448
blog <http://juillet7.exblog.jp>

本間 翔好 / 『ARCH HERITAGE Le SALON』スタッフ

>古着の魅力について聞かせてください。

デザイン、色使い、着古された風合い。気張らずに自分らしく着られるのが魅力です。

>古着に関して自分ならではのこだわりがあれば聞かせてください。

サイジングです。女性らしく着こなせるよう気を配っています。

>自身で所有されている古着の中で特別な一着を教えてください。

"フランス軍のM47パンツ"です。6年ほど前、わたしがまだ入店する前に購入しました。なんとなく、この先ずっと手放さない気がします。

>古着選びのコツ、また着こなしためのポイントを教えてください。

ゆっくりじっくり、お店の中にあるもの全てを見ること、店員さんとお喋りすること。(裏にスペシャルなものがストックしてあるかもしれないですよ)そして、ビビッときたらすぐ買うことです!

>古着で持っていると便利なおすすめ商品があれば教えてください。

"ユーロリーバイス501"です。ヴィンテージのように素晴らしい色落ちのデニムが低価格で手に入ります。

『ARCH HERITAGE Le SALON』
address 北海道札幌市中央区南1条西3丁目3-3
札幌PARCO-3F
telephone 011-281-4280
blog <http://archheritage-le-salon.blogspot.com/>



ジャケット (used) / ¥13,440-
ローファー (used) / ¥24,990-



スーツパンツ (used) / ¥13,440-

徳永 麻美 / 『ARCH HERITAGE WOMENS』スタッフ

>古着の魅力について聞かせてください。
同じものがふたつとなく、その中で自分にぴったりとハマるアイテムに出会えた時。特に、色が抜けてしまっている経年変化を感じられる物に魅力を感じます。

>古着に関して自分ならではのこだわりがあれば聞かせてください。
サイズ感です。

>自身で所有されている古着の中で特別な一着を教えてください。

“アディダスのダブリン”です。じっくりアディダスをずっと探しており、初めて見かけて一目惚れ。それから2年後、店内で再び出会えた時に運命を

感じました。自分には欠かすことのできない、大好きなアイテムです。

>古着選びのコツ、また着こなすためのポイントを教えてください。

ピンときたものを選ぶようにしています。サイズ感と全体を崩しすぎないよう、新品とのバランスの良いスタイリングを心掛けています。

>古着で持っている便利なおすすめ商品があれば教えてください。

“フレンチアーミー・サービスシューズ”です。レディースサイズはなかなか稀なのですが、何でも合わせやすく、かなり使い勝手が良いです。

『ARCH HERITAGE WOMENS』
address 北海道札幌市中央区南4条東1丁目9-3
米村屋ビル-2F
telephone 011-281-5560
website <http://www.arch-heritage.com>

木村 朋美 / 『ARCH HERITAGE WOMENS』スタッフ

>古着の魅力について聞かせてください。
その一点でしか味わえない風合いや素材感です。

>古着に関して自分ならではのこだわりがあれば聞かせてください。
サイズ感ですね。

>自身で所有されている古着の中で特別な一着を教えてください。

“バブアーのビデイル”です。デザインが変わる前のフラップポケットでキッズサイズをずっと探していたのですが、ふとしたタイミングで手に入れることができました。適度にオイルが抜けた風合いが

非常に魅力的で、これからはずっと永く愛用していきたい1点です。

>古着選びのコツ、また着こなすためのポイントを教えてください。

サイズ選びと、すべて古着ではなく、新品も取り入れたスタイリングにするとまとまりやすいです。

>古着で持っている便利なおすすめ商品があれば教えてください。

“バブアーのビデイル”です。何と合わせても雰囲気のあるスタイリングに仕上がります。

『ARCH HERITAGE WOMENS』
address 北海道札幌市中央区南4条東1丁目9-3
米村屋ビル-2F
telephone 011-281-5560
website <http://www.arch-heritage.com>



運命的な出逢いと、胸の高鳴り。
ファッションを楽しむ女性達の姿は、
きっといつの時代も変わらない。

FOR ALL WOMEN

have a nice day!

photograph Asako Yoshikawa(photo works FREAK)
design Hayato Sakaida(bond graphic)

FOR ALL WOMEN

have a nice day!



そこにいるだけで、いつのまにか笑顔になる。
ショップ以上の存在としてライフスタイルに寄り添う
『ハヴァ・ナイスデイ!』。

女性のためのファッションを提供し続けるセレクトショップ『ハヴァ・ナイスデイ!』が、今年9月に待望の路面店としてリニューアルオープン。旭川の中心街に並ぶビルの間隙に挟まれた、ひと際目を惹く石造りの建物。少しだけ重たいドアを押すと、そこには女性を瞬で虜にしてしまう、魅力的な空間が広がっている。
「時を共有することで雰囲気や存在感を醸し出してくれるナチュラルで個性的なアイテム、そして「今日はこの洋服に出会えて素敵な一日だ!」と喜びを感じていただける空間を提案しています。世代を問わず幅広く楽しんでいただけるショップで、アミューズメントパークを訪れたようなときめきも保障します。」

木目を基調とした内装の店内には、選び抜かれたアンティークの什器や装飾が揃えられ、時代に左右されない重厚感の中にも、どこか柔らかさとぬくもりを感じさせる独自の世界観を生み出している。
「スタッフ全員で作り上げた店内は、各ブランドが持つ世界観に合わせ、アイテムの魅力をより一層引き出せるよう意識しています。」

それぞれの提案や個性に合わせてディスプレイされた各コーナーには、華やかなブランドやアイテムが所狭しと並べられている。
「全体としてナチュラルで個性的な、飾らない大人の女性を演出しています。大人気の“キャピタル”、“ジーン・ナッソーズ”、“エー・アイ・シー”、“ゴー・ヘンプ”をはじめ、道内では取り扱いが珍しいブランドも取り揃えています。シルバーアクセサリーブランドの“バブ”が9月からラインナップに加わり、ブーツでは定番の“レッドウイング”や11月から開始予定の“トリッカーズ”、小物やインテリアでは“ロビタ”、“カシラ”、“モキップ”、“キー”、“ペンデルトン”など、どれもおしゃれ好きにはたまらないブランドばかりです。」

日増しに寒さが身にしみるこの季節、気になる今秋冬の着こなしを訊いた。
「マストアイテムのベストは、どんなコーディネートにも相性よく、着まわしが利きます。“キャピタル縮絨ウールマフラー”は巻くだけで雰囲気が出るので、スタイリングのアクセントとして毎シーズン好評いただいています。幅広い年齢層に好かれる“ロビタ”のバッグは、カラーバリエーションも増えて、もうすでにお持ちの方にもおすすめですね。」

居心地の良い店内にはベンチも設置され、ゆっくりとくつろいだり、世間話を楽しんだり、常連客が思い思いに過ごしている。単なるショップとして取まらず、時に様々な交流の場として絶えず賑わう。
「念願の路面店へ移店できたことで、ひとりひとりのお客様とよりコミュニケーションを取り、これまで以上の信頼関係を築いていける環境づくりをしていきたいです。これからもスタッフ全員が心掛け、日々成長していけるショップにしていきます。12月にはお客様に楽しんでいただけるクリスマスイベントも企画中ですので、ぜひ楽しみにしてください!」

『have a nice day!』

address 北海道旭川市3条8丁目(38パーキング隣)
telephone 0166-74-8358
open 10:30 ~ 19:30
brands KAPITAL / A・I・C / JEAN NASSAUS / GO HEMP /
mash mania / romar queen / CA4LA





変わらることのない、約束の場所。
刻まれた誓いを継ぎ、またここから始まる。

UNIVERSAL PLACE

POWWOW TRADING POST

photograph Asako Yoshikawa(photo works FREAK)
design Hayato Sakaida(bond graphic)



待ち望んでいた、『パウワウ』との再会。 老舗ショップの途絶えることない灯りが、この街を輝かせる。

1993年のオープン以来、不運に見舞われた2010年2月の火災による全焼から這い上がり、今年2月に仮店舗から原点の地で再び復活を果たした老舗セレクトショップ『パウワウ・トレーディング・ポスト』。無機質な白を基調に、余計なものを一切削ぎ落とした、シンプルで洗練された建築デザインは従来の印象を大きく覆す。

「これまでとはまた違った印象の空間になっていますが、以前の店舗のイメージをベースにしていますので、どこかに面影も感じていただけるのではないかと思います。外観や内観などの建築デザイン、アンティークの什器、アーティストによる作品、そして商品のすべてを含めて『パウワウ』の世界観を表現しています。以前のショップを御存知の方も、新たに知っていただけ方も、それぞれに楽しんでいただけると嬉しいです。」

再会の感動を深めてくれるように、独自の世界観と存在感、そして空気感まで、根底にあるものは当時のまま、何も変わらない。バイクやワークを基盤としてアメカジに英国調を取り入れたスタイルを提案し、“ナイジェル・ケーボン”や“バブアー”をはじめ、永く愛用できる上質な逸品の数々が取り揃えられている。

「オープン当初からぶれることなく、機能性・普遍性・ファッション性を重視した独自のスタイルのもと、時代の流れにとらわれることなく多彩なブランドやアイテムを展開しています。バイカーグローブ“ガントレット”などオリジナルにも注目していただきたいですね。」

静かで落ち着いた空間の中で、ゆったりと流れていく時間。随所にこだわりを感じさせる店内だが、中でも奥に配置された壁一面を覆い尽くしたブーツ棚は圧巻。“レッドウイング”、“ウエスコ”、“ホワイツ”、“ヴィバーク”など名立たるブーツブランドが勢揃いし、出逢いの訪れを静かに待ち受けている。「至る所に工夫を施しているのですが、ブーツ棚は2階の吹き抜けから光が差し込むように設計されているので、時間帯によって商品の表情が違って見えるのも面白いです。」

また、“ラングリッツ・レザー”、“ショット”、“バンソン”、“ルイスレザー”など、不朽の名作がずらりと並ぶライダーズは、北海道でも屈指の品揃えを誇

る。“一生モノ”を求めて、近郊のみならず、札幌や全国から訪れてくるお客も珍しくない。

「品数は今もまだ増え続けているのですが…(笑)、最新モデルからサイズまで豊富に取り揃え、試着も納得いくまでしていただけますので、ぜひ自分だけに合う一着を探してみてください。」

そしてもうひとつ、このショップを象徴するが、壁面に飾られている旭川出身のローブロー・アーティスト“スケッチ”氏の原画。独自の感性とオリジナリティーによる繊細なデザインと力強い筆遣いは必見だ。

「スケッチ氏とは永くお付き合いをさせていただいて、どれもこの世に一枚しかない貴重な原画となっています。原画ならではの迫力や質感をぜひ感じてください。実はショーウィンドウのレタリングも本人が直筆で描いてくれているんですよ。他にも当店とゆかりのある様々なアーティスト達の作品が飾られていますので、ご覧になっていただくとより世界観の奥行きが増していくと思います。」

この場所にオープンしてから18年一。今年もまた同じ季節が流れる。老舗ショップの途絶えることない灯りは、街の欠けがえのない存在として根付いていく。

「何も変わりません。これまでも、これからもお客様ひとりひとりと向き合っていく、それだけです。」

『POWWOW TRADING POST』

address 北海道旭川市3条通9丁目1704-24

telephone 0166-27-2566

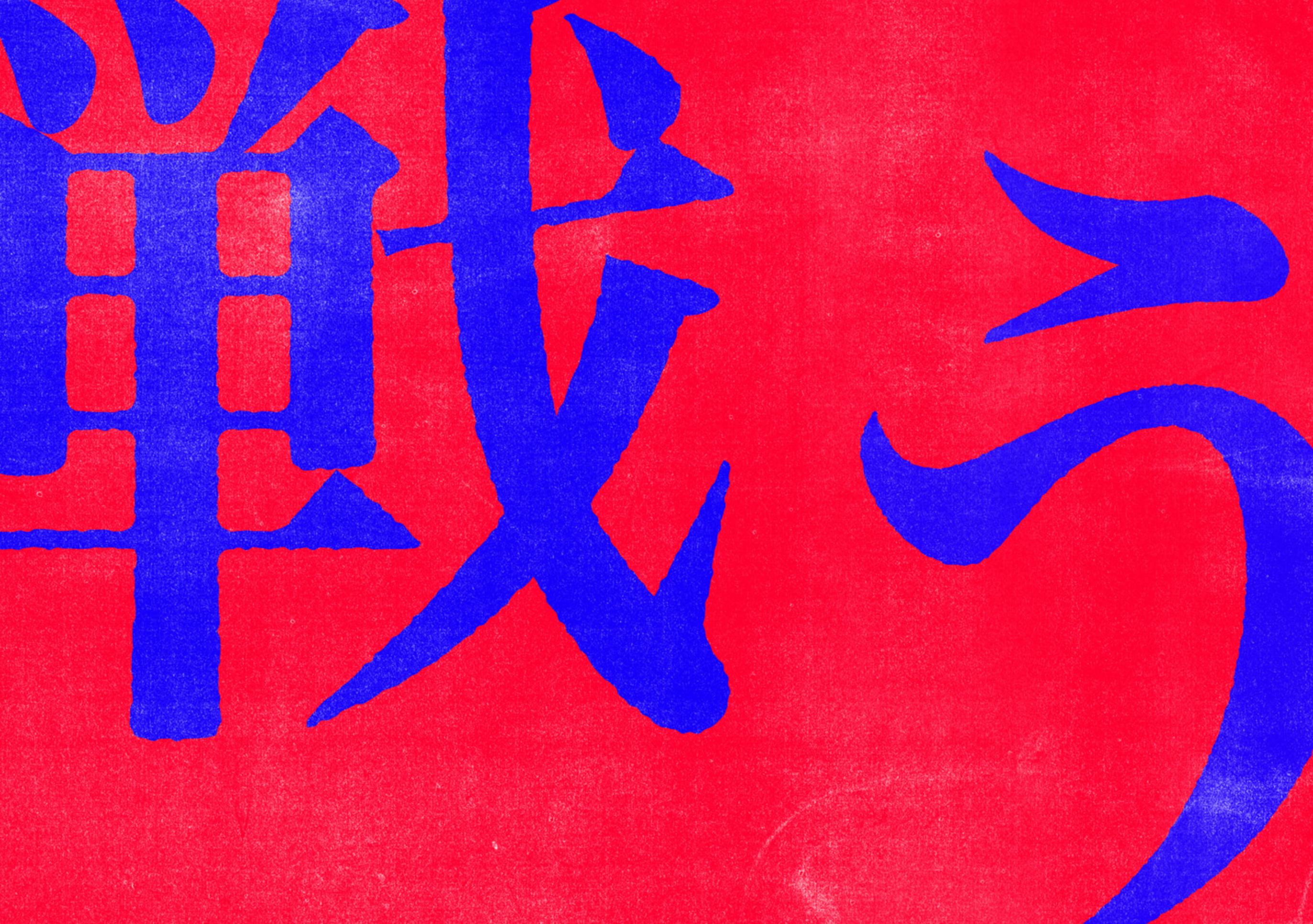
open 11:00~20:00

holiday 無休(年末年始を除く)

website <http://www.powwow.jp>

brands Langlitz Leathers / Schott / VANSON / Lewis Leathers / STNDARD MC LEATHERS / Four Speed / RED WING / WESCO / WHITE'S / DANNER / CHIPPEWA / VIBERG / STOP LIGHT / WING ROCK / galcia / SUGAR CANE / BUZZ RICKSON'S / IRON HEART / WEST RIDE / Free Wheelers / Nigel Cabourn / Barbour / PHIGVEL / OLD JOE / SNOID / CA4LA / Black Flies





類い稀なる感性と攻撃的な演奏で新世代のロック鳴らす“THE★米騒動”。

すべてに抗うように、激しくギターをかき鳴らし、渾身の力を振り絞って咆哮する。

不安や焦燥感、やり切れなさを力まかせにぶつける、狂気をはらんだ純粹さと繊細さ。

本能の赴くまま全力疾走するその姿に、心の奥底にある衝動が激しく揺さぶられる。

自分自身と重ね合わせ問いかけてみる、いつのまにか戦うことを忘れてしまっていないか。

失うことを恐れず、痛みを耐え、どんなに辛く苦しくとも、立ち向かわなければならない時がある。

彼らは自らの足でその舞台に立つ。THE★米騒動は戦う。

photograph Ryouichi Kawajiri (Kwajiri Shashinkan) / Asako Yoshikawa (photo works FREAK)

design EXTRACT / Hideki Akita (tootootoo)

THE★ 米騒動

吠える THE★米騒動

どうでもいい芸術

HALL
SPIRITUAL LOUNGE











Border

「世間の理不尽さ」とか

「世間の不条理さ」とか

そんな言葉で片付けてしまう

腐った大人は既に終わっているってことじゃ？

ニヒルに笑うその口が嫌い

誰かのために信用を無駄遣い

そんな立場で片付けてしまう

「腐った大人は既に終わっているってことでしょうか？」ってね。

愛想尽かして、愛憎、相半ばする

通俗化された世界に何を求める

小さな光に万人が取りすぎる時代

吐き気がする 僕は何を見たのか





!!
!!
!!
!!
!!



A high-angle, low-key photograph of a musician with long, light-colored hair, wearing a white jacket and dark pants, playing a light-colored electric guitar on a stage. The musician is leaning forward, focused on their performance. A microphone on a stand is positioned to the left of the musician. The background is dark, with a few out-of-focus lights visible at the top of the frame. The overall mood is intimate and artistic.

俗物美術展覧会

どうでもいい芸術に

どうでもいい時間を割いて

「どうでもいいからね」と2%に懸けてみる



LOUNGE







Hys

金髪の彼女とレベルの同じ生活
部屋中の壁をアルミ箔で覆ったんだ

いつも横の君と何をしたらってかまわない
いつもの横の君に何をしたかも覚えてない

外へ逃がしてくれない 飼いなされたイマジネーション
外へ逃がしてくれない 彼女は××属性







ウ
ア、ア、ア、ア、ア

ア、ア、ア、ア、ア

CANDY







祝女

「大体前と同じでしょう？
全員一生一緒だから
みんな一生一緒なのよ
同じ賞味期限の刑期に
同じくらいの同情を寄せて
結局どちらも捨ててしまう
そんな人になりたくなくて
ただ青さだけを追い求めている
そう思われても仕方が無いわ
私が一番可哀想なの
殺して頂いても結構よ。」



『 』









HALL
SPIRITUAL LOUNGE



群青

結局僕が何を言おうとこれと言う変化は無い

いつか世界をかえてやると言った君はどこへ

それが君の全てと言うなら僕は何の干渉もしない

でもそれは君じゃないんでしょう？

嘘をついて生きるの

世界を変える その力を

彼は待つのか

希望を

今君の思う全ては 希望 絶望 そこにあるのは

結局彼の中の非望は何の音も立てず消えた

その無音のときの中では何も感じる事ができない

目の前に転がる事実期待することもやめたの

でもその事実は君の能動的な真実

世界を変える その力を

彼は待つのか

希望を











ファンタジック柵の前

角の折られたトナカイが こっちを見ている
誰も気づかない 悲しい 悲しい

汚れた自動販売機 こっちを見ていた
誰も気がつかない 悲しい 悲しい

声も温度も 消え去った

単調な生活は続く
無音の世界で3時間

















ブラック・ダンス・ホール

たまんない 頭揺らして
止まんない 腰ふりスカダンス

叫ぶ 説ける 跳ぶ 飛べ

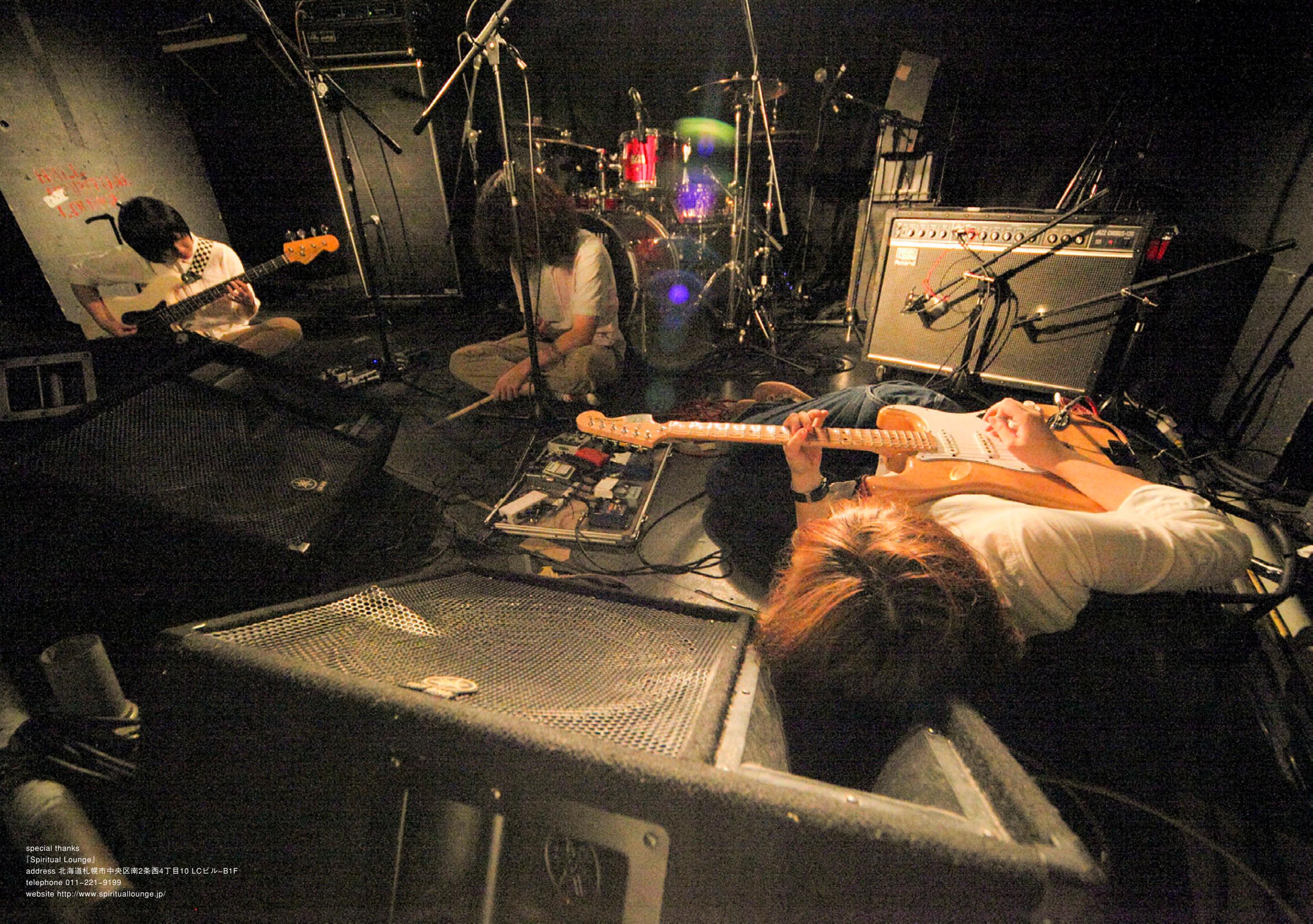
うねる心の叫びを サスティーン 一気に溶けてみて
刺激的な彼女の声で フィードバック 一気に飛ばすのよ
雨上がりの夜空のミラーボールに願いを込めて
足踏みする君の姿を目に焼き付けて











special thanks
「Spiritual Lounge」
address 北海道札幌市中央区南2条西4丁目10 LCビル-B1F
telephone 011-221-9199
website <http://www.spiritualounge.jp/>

語る THE★米騒動

今年2011年6月に発表された1stミニアルバム『どうでもいい芸術』には、当時10代だったメンバー3人のほとぼしる感情と初期衝動が、渾身の力で叩き付けられた全7曲が収録されている。

THE★米騒動は、東京をはじめ全国各地でも精力的にライブ活動を行い、数々の著名バンドらと競演。新人では異例ながら、8月には「ROCK IN JAPAN FES 2011」、「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2011 in EZO」へも出演を果たしている。そして、レコ発となる「人間の三大欲求解放ツアー」では大阪・東京に続き、9月に地元・札幌でツアーファイナルを迎えた。

多くの経験と成長を経て、時にとまどいながらも、今を駆け抜ける彼らの胸の内に迫る。

THE★米騒動

石田愛実 (Gt. & Vo.)、沖田笙子 (Ba.)、坂本タイキ (Dr.) からなる3ピースバンド。高校の軽音楽部にて結成。2010年8月、10代限定フェス「閃光ライオット」にてグランプリを獲得。2011年6月、1stミニアルバム『どうでもいい芸術』をリリース。現在札幌を中心に活動中。

website <http://39.xmbs.jp/TheRicePanic/>



1st ミニアルバム『どうでもいい芸術』
WHITE RIOT／WRT-001 ¥ 1,890 (tax in)

1. Border
2. 俗物美術展覧会
3. Hys
4. 祝女
5. 群青
6. ファンタジック柵の前
7. ブラック・ダンス・ホール



「自分の中で格好いいと思うものを、
同じように相手にも格好いいと思ってもらえるなら
それでいいです。」

Interview » 石田 愛実 (Gt.Vo.)

今年2011年6月に待望のファーストミニアルバム『どうでもいい芸術』がリリースされました。まずは現在の心境から聞かせてください。

今までライブに来てくれたお客さんに作品として聴いてもらえるのももちろんなんですけど、ウチらのことをタワレコの試聴機とかプロモーションビデオを観て知ってくれた人達もたくさんいてくれるのは嬉しいです。東京とかに行っ
てライブをすると、顔を知らないお客さんでも曲を聴いてきてくれて、一緒に歌ってくれてる人がいたりするとやっぱり感動しますね。

今作でのコンセプトはありましたか？

“THE★米騒動”というバンドをみんなに知ってもらうためのファーストで、名刺替わりな作品ですね。このアルバムに入ってる曲は、ほとんど高校の頃に作った曲なんですけど、2年半くらいライブ活動をやってきて、その中でやり慣れた曲と、セトリリストにわりと沿うような曲順になっています。曲を作っている時にも考えながら作るんですけど、曲を並べていくとその曲の立ち位置っていうのがなんとなくあって。例えば、「ブラック・ダンス・ホール」は裏打ちがやりたくて作った曲なんですけど、キャッチーな曲が少ないから、ライブの最後にやる流れが多くて、一番締まる感じですね。お客さんも付いてくれるし。

アルバムのタイトルの由来は？

アルバムのタイトルはわたしが付けました。2曲目に「俗物美術展覧会」っていう曲が入ってるんですけど、ちょっと斜に構えた感じですね。その曲のフレーズもアルバムの中で自分的に一番気に入っていたし、“どうでもいい芸術”っていう言葉の響きがアルバムのタイトルになっていたら、もし他の人のアルバムタイトルになっていても、自分的にはちょっと熱いなと思うから。サクッと決まった感じですね。

今作で特にこだわられたことは何でしたか？

ライブのままやって録ったって感じですね。とりあえずライブ感を出したかったので、ほとんどの曲がメンバー全員で一発録りの一発目です。テンションをもっていかなきゃいけないって、1日3曲とか録る時とかは大変でした。クイックを最初に全部作ってやってみたんですけど、勢いを出すのがなかなか大変で。試しにクイックを外してみたら、みんな解放されてめっちゃ良くなって。やっぱりクイックはなしで、ライブのままやろうってことに決めました。

展開の面白さも特徴のひとつですが、曲はいつものように作られていくんですか？

基本的に、最初はリフとかフレーズから作ることが多いですね。フレーズが浮かんでというか鼻歌で作って、ギターで弾いてみて、それに対しての曲展開ををノートになんとなく書いていって、型にはめるように順番に作っていきま
す。調子が変わっても展開にいった方が絶対グッとくると思ってやっていくと、ああいう急展開な感じになっちゃったりとか。最近はあるんなり方をしようと思って、歌詞から作ることもあるし、メロから作ったりもしてます。

曲はどんな瞬間に浮かんでくるんですか？

自分の中でしか生まれないんですね。鼻歌とかバスの中とかではよく生まれるんですけど、それをなんとか形にして、これだったら自分でも納得して大丈夫かなって思えるものをメンバーに聴かせて、そこから坂本がアレンジをしてちょっと引き出しが多くなりますね。

歌詞の表現も独特ですね。

歌詞はひとりでカフェとか行って書いてます。「スターバックス」とか『タリーズ』だったり、結構どこでも行くんですけど。日常的に考えていることを、そこで文章にするという
か、まとめる感じです。英語はわからないし、文法を間違ったら恥ずかしいから。しかも、訳さないと日本人には伝わらないじゃないですか。自分で歌う曲を、わざわざ英語を並べてわからなくしてしまうのも、意味のわからない話なので。日本語ロックは貫きたいですね。

歌詞は表現や世界観を伝えるための、あくまで曲全体の一部なんですね。

音のひとつですね。その文章にも伝えたいことはあるんですけど、結局何を歌っても一から十まですべては伝わらないだろうから。わたしの歌詞は人に対してディスってるものが多いんですけど、そういう内なるものをただぶつけるだけっていう(笑)。地下鉄とかで聴いていて、単語だけながら歌詞を書いています。歌詞で何かを伝えたいのであれば、極端な話をするコラムを書けばいいと思うんですよ。アコースティックギターを片手に歌った方が絶対に伝わるし、ロックバンドで歌詞が聞き取れるバンドってあんまりないと思うんですね。ロックバンドにしてもウチらのようにやらない方法が他にあると思うし。フレーズが聴こえてきて、それがなんとなく頭に引っかかるみたいなのが好きで、そういうのがやりたくて曲を作ってますね。

メンバー全員が同じようにその感覚を共有しているんですか？

メンバー全員が格好いいと思える共通認識のもと曲を作ってます。わたしが作ってきた曲に対して坂本がアレンジを付けていって固めていく感じですね。自分でやりたい音楽性と違うけど、格好いいからやるバンドもいると思うんですけど、そういうのはやりたくないです。3ピースバンドなので特に。

野外フェスなど大きな会場でのライブを経て、バンドとして何か変化はありましたか？

東京に一か月に1〜2回行ってやらせてもらっている中で、何本も重ねていくうちにこんなライブでいいんだろうか？って考えることがどんどん増えてきて、いろいろ課題が山積みになってきてますね。自分らが今日はいいライブだったなって思えた日でも、観にきてくれたバンドの友達とかにはもっとこうした方が良いとかアドバイスをくれることも多くて、もっと階段を上がってかなきゃいけないって思
います。

例えばどんなことですか？

…集中力ですね。2日連続ってなると、どっちかが劣るライブをしてしまうんですよ。たいてい次の日なんですけど…。集中力が切れてしまうのが課題だと思います。たぶん、わたしの問題です…(笑)。

一般的には最終日の方が盛り上がる印象がありますが…。

2日目は負けます。1日目を出し切って、搾り取られて…(笑)。

石田さんにとって最高のライブとはどんなライブですか？

なんだろう…お客さんを掴んでいけた時というか、札幌ではあんまりないんですけど。

地元なのに…(笑)。

札幌は引いて後ろで観ているお客さんが多いじゃないですか。東京に行くとか、お客さんが他のバンドを観にきていたとしても、どのバンドでもコールアンドレスポンスがあるんですよ。1曲目は普通に聴いているんですけど、2曲目、3曲目って帰っていくうちに、いきなりモッシュが起きたりすることがあって、そういう感覚がすごい面白いですね。関西とか行くともっとすごい。良い悪いではないと思いますけど。



「石田が作ってきたものを格好いいと思っているし、それに対して自分が良いと思える形で乗っていけるか、それだけですね。」

Interview » 沖田 笙子 (Ba.)



「10代とかの部分だけで取り上げられるのには、ちょっとコンプレックスはありますね。次のフルアルバムは大人を黙らせるアルバムにしたいです。」

Interview » 坂本 タイキ (Dr.)

[ファーストミニアルバム「どうでもいい芸術」がリリースされましたが、今の心境を聞かせてください。](#)

全国の人に聴いてもらえて、聴き手の人に受け取ってもらえたというのがすごく嬉しくて。出して意味のあるものだったことが実感できました。

[どういった時に感じられましたか？](#)

CDを聴いてライブに来てくれた人もい思うんですけど、いろんな形でレスポンスが返ってくるのが面白いですね。

[制作過程で特に印象に残っていることはありますか？](#)

曲間の時間の決め方ですかね。全部録り終わった後に、曲順も決まって、曲間をみんなで切っていったんですけど、石田が「ここ!」って決めるのがすごいなと思いました。伝わりにくいかもしれないけど(笑)。

[石田さんは妥協しなそうですね。](#)

あとはエンジニアさんが録った曲に対していろんなアイデアを出してくれて。そういうこともできるんだみたいな、気が付いたこともたくさんあったので、引き出しのにも良かった気がします。

[スタッフが加わるというの大きな環境の変化ですね。](#)

そうですね。

[ベースとして特に気を配られたことはありますか？](#)

曲の雰囲気合うように音を自分なりに考えて作ったり、弾き方を変えてみたりとかですかね。

[苦労されたことはありましたか？](#)

クリックに合わせられなくて、録った後に聴いてみると勢いが死んじゃった感じがしたんですよ。結局は全員一致でクリックをやめることにしたんですけど、最終的に自分達のスタイルで演奏できて良かったと思います。

[曲調の変化に合わせにくいこともあるのでは？](#)

どこからが最初で、どこからが終わり?っていうことがよくありますね。

[聴く側もみなさんよく弾いてるなど思います\(笑\)。](#)

わからない時は石田に弾いてもらって教わります。弾いてもらってもわからないこともありますけど(笑)。

[曲作りの現場では沖田さんはどういう立ち位置で参加されていますか？](#)

音作りではあんまり言わないですね。曲を良くするために自分ができることを常に考えています。

[石田さんの中にあるイメージに近づけていく感じなのでしょうか？](#)

いつも石田が曲を作ってくるんですけど、やっぱり作った本人が一番わかっていると思うので。わたしは石田が作ってきたものを格好いいと思っているし、それに対して自分が良いと思える形で乗せていけるか、それだけですね。

[札幌の音楽シーンについてはどのようにとらえられていますか？](#)

札幌以外の音楽シーンをあまり知らないんですけど、札幌はライブとか観ている格好いいバンドがすごい多いです。いろんな技術を学べるし、吸収できるものがすごく多いですな。

[東京との違いを感じることはありますか？](#)

札幌の方が付き合いが長い分だけやりやすかったり、バンド同士での仲の良さとかがあるくらいで、違いはあんまりない気がします。

[今後の活動について教えてください。](#)

とりあえず目の前にあるライブを全力でこなしていきたいですね。そこで得られるものがあれば超したことはないし、反省できる点があれば自分の収穫としてもっと頑張るだけです。

[ファーストミニアルバム「どうでもいい芸術」がリリースされての手感はいかがですか？](#)

まあまあですね。

[特にこだわられたことは何でしたか？](#)

特に無かったですね。いつも通りのライブの感じでやろうみたいな。自分なりには勢いですかね。一発録りでやったんですけど、ひたすらライブの勢いを入れたっていう。選曲的にはライブを想定した感じで、アルバム全体の流れとかもみんな考えて選びましたね。でも、持ち曲もまだそんなに無かったので限られているし、いつもライブでやる中でどれを削るかくらいで。わりと決めるのは簡単でした。

[ドラムとして特に気を配ったことはありますか？](#)

なんだろう…オリジナリティかな。あと、直感も信じてますね。フレーズを考えたら考えただけ思いつくので、どれが良いかわからなくなっちゃうから。直感でこれ!と思ったものを決めるみたいな。わりとフレーズとかを決めるのは早い方だと思います。

[制作過程で特に印象に残っていることはありますか？](#)

今回は元“椿屋四重奏”の小寺良太さんがドラムチェックに付いてくださって、サウンド面でも気持ちの面でも盛り上げていただいて、すごく助かりました。

[曲はいつものように作られていくんですか？](#)

作っていく時は、石田が基本的に土台を持ってくるんですよ。それを聴いて、オレの曲感でこら叩きたいっていうのをバツと叩いて。石田が1曲全部持ってくることはあんまりなくて、フレーズごとで適当にパーッと弾いたりしてて、自分の中でなんとなくそのフレーズを消化しながら叩いていく感じですね。メンバーから注文を受けることかもありますが、それに納得したらそのアレンジで考えるし、納得できなかったら自分のやりたい通りにやってますね。

[男女編成という部分でやりにくさを感じることはありますか？](#)

最初は気遣ったりもあっただんですけど、今は全くないです。女の子っぽくないのが、また救いなんですけど。女として見ないっていうか、男と接してる時とほぼ一緒ですね。やりやすいです。気を遣って言わないとかありえないですね。別に石田のバンドじゃないから。

[すべてを叩きつけるようなライブでの演奏は迫力がありますか？](#)

今のライブ以上の時間を叩き続けるのは無理ですね(笑)。ワンマンは想像つかないです。2時間分の持ち曲が今は無いので、どっちみち無理なんですよ。

[札幌の音楽シーンについてはどのようにとらえられていますか？](#)

オレはあんまり詳しくないですけど、歴史がすごいですよね。「カウンターアクション」で昔やってたバンドとか聴くんですけど、“カウパズ”とか“キウイロール”とかすごい好きです。たぶん、石田も同じこと言ってたと思うんですけど。今じゃ絶対に聴けないバンドですけど、「カウンターアクション」の横とか通る時に、あのバンドがここでやってたんだと思うと、ゾクッとしますよね。

[東京との違いを感じることはありますか？](#)

東京のシーンはわからないですけど、東京へ出てバンド一本って決め込んでやってるバンドは格好いいですね。札幌でダメなら就職すればいいや…みたいな感じでやっていると、どうしても生ぬるいと思うから。危機感のところで、東京の方が音楽的にも危機迫るものがある気がします。

[今の現状についてどのようにとらえられていますか？](#)

10代のバンドとかフロント2人が女の子だかってことで騒がれていると思うんですけど、それは別で単純に音楽だけを聴いて格好いいじゃん!って思ってもらえるバンドでありたいです。10代とかの部分だけで取り上げられるのには、ちょっとコンプレックスはありますね。まあ、しょうがないんですけど。だから、次のフルアルバムは大人を黙らせるアルバムにしたいです。

THE★米騒動 沖田 笙子
SAPPORO GUIDE
 メンバーが行きつける街のお気に入りスポットを紹介


 札幌シネマフロンティア

address 北海道札幌市中央区北5条西2丁目
 STELLAR PLACE 7F
 website <http://www.cinemafrontier.net>
 「映画が好きでよく観ています。最近観た映画は「モテキ」です(笑)」


 東札幌図書館

address 北海道札幌市白石区東札幌4条4丁目
 telephone 011-824-2801
 「図書館によく引きこもります。家にいる時は、本を読むか、ゲームをやるか、音楽を聴くかって感じですかね。」

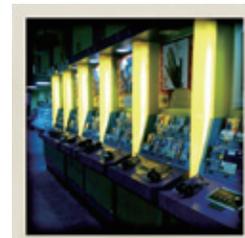

 JR 札幌駅

address 北海道札幌市北区北6条西3丁目
 telephone 011-222-6130
 website <http://www.jrhokkaido.co.jp>
 「路線図を眺めながら、案内で旅するのが好きです。寂しいですけど、楽しいです。」

THE★米騒動 坂本 タイキ
SAPPORO GUIDE
 メンバーが行きつける街のお気に入りスポットを紹介


 創成川公園

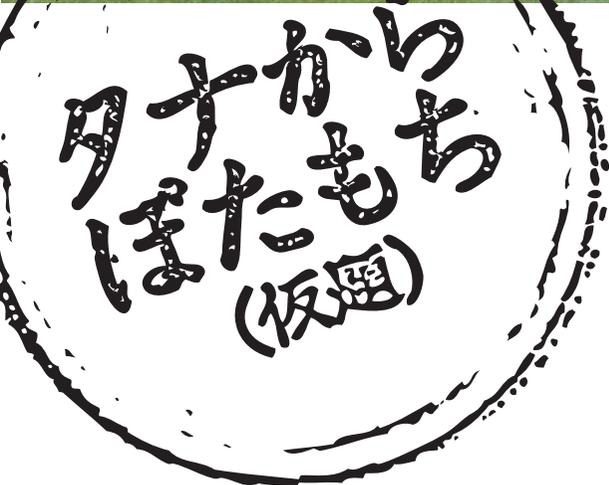
address 北海道札幌市中央区南4条~北1条東1丁目・西1丁目(創成川通)
 website <http://www.sapporo-park.or.jp/sousei/>


 TOWER RECORDS 札幌PIVOT店

address 北海道札幌市中央区南2条西4丁目
 PIVOT-7F-8F
 telephone 011-241-3851
 website <http://tower.jp/store/SapporoPivot>
 「気になった作品があれば、全部试听して帰っていきませう。だいたい迷客だと思っんですけど(笑)。」2~3時間は平気でいられますね。」

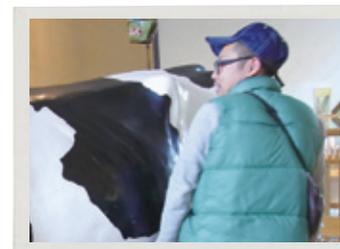

 山岡家 南2条店

address 北海道札幌市中央区南2条西1丁目6-1
 telephone 011-242-4636
 website <http://www.yamakaya.com>
 「ライブマンに提供したソルフードです。あの匂いも最高。よだれがどばどば出ます。オレの注文はたいたい「醤油の鶏焼肉」です。」



札幌狸小路の端でこっそりやってる美容室
『リアン・ヘアー・アトリエ』の店主とスタッフが、
そのときで気になったモノやコトを紹介する連載第2回!

text TANA (Lien hair atelier)
photo Ryouichi Kawajiri (Kwajiri Shashinkan)
design Hayato Sakaida (bond graphic)



「Lien hair atelier」
address 北海道札幌市中央区南2条西8丁目5-4
FABcafeビル-3F
telephone 011-272-5447
website <http://lien-lien-lien.jp>

VOL.2 TANA'S KETCHEN CAMP

10月上旬某日、札幌市内のサロン3店舗合同で開催された「秋の極寒キャンプ 2011 in 富良野」!この日はあいにく天候が不安定、さらに夜間の気温はなんとわずか2℃…!極寒の大地で、「リアン・ヘアー・アトリエ」店主・タナムラ氏(35歳・独身)がふるまう、漢(おとこ)のアウトドア料理!自慢のアウトドアグッズを駆使した、その腕前やいかに…!?いざ、実食!!

「星に手のとどく丘キャンプ場」
address 北海道空知郡中富良野町字中富良野ベベルイ
website <http://www.hoshioka.com/>





夕食 1

千キントマトカレー
「すりおろしたたまねぎ&リンゴをワインとトマトそして、カレールー&カレー粉を入れてコトコトグツグツじっくり煮込みました。最初はフルーティーな甘さがきて、それを追うように大人な辛さが追いかけてくるこの味は、まさにカレーの徒競走や〜!!」(タナ)

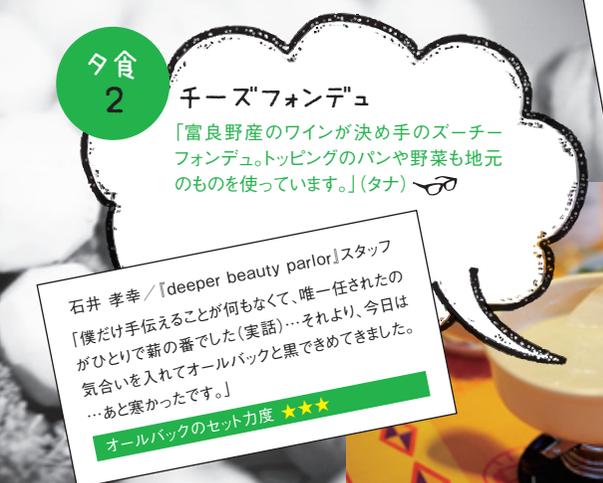
滝田 恒平 / 「deeper beauty parlor」代表
「調理グッズが充実していて、それだけは羨ましかったです…それより、前日から仕込んできた自家製サンダリアが上手できて良かったです。今回は洋梨も加えてみました。…あと寒かったです。」
自家製サンダリアが酒落てる度 ★★★



夕食 3

ピリ辛千キンのトマト煮
「カレーを調理した時に残しておいたトマト缶と白ワインに、ニンニクとしょうがを入れて焼いた手羽元とチヨリソーを加えて、水分が飛ぶまで煮込みました。」(タナ)

横山 光輝 / 「DROLL」代表
「半端ない仕切りを發揮して、遠目から頑張ってるなど思いました…それより、満天の星空は言葉にできないくらい綺麗で感動しました。オレ、黄昏、スキ。…あと寒かったです。」
寒さで酔っばらいメイク顔だった度 ★★★



夕食 2

チーズフォンデュ
「富良野産のワインが決め手のズーチーフォンデュ。トッピングのパンや野菜も地元のものを使っています。」(タナ)

石井 孝幸 / 「deeper beauty parlor」スタッフ
「僕だけ手伝えることが何もなく、唯一任せられたのがひとり薪の番でした(実話)…それより、今日が気持ちを入れてオールバックと黒できめてきました。…あと寒かったです。」
オールバックのセット力度 ★★★



夕食 4

スモーク&カプレーゼ
「スモーカーを使って作ったうずらとズーチーのスモークと、切って盛るだけで美味しいカプレーゼ。とりあえず酒のつまみが欲しかったんでサクッと。」(タナ)

ユイカ / 「Lien hair atelier」スタッフ
「白いごはんさえあればいいです(おかわりしながら)…それより、あたたかいロッジの中でのガールストークが楽しかったです。ちなみに彼氏に作ってあげたい得意料理はグラタンです♥…あと寒かったです。」
大富豪が楽しかった度 ★★★



夜食 1

なんちゃってリゾット
「カップヌードル(カレー)の残りスープと、チーズフォンデュで残ったチーズと、残りご飯を混ぜて弱火で炊き上げました。」(タナ)

長内 えりか / 「DROLL」スタッフ
「わたし、その頃夢の中だったんで…それより、焚き火にあたっていたらお気に入りのブーツの先端が溶けてしまいました。せめて笑いが欲しかったです。(切実)…あと寒かったです。」
溶けたブーツの今後が気になる度 ★★★



朝食 1

ホットサンド&パンネ
「ホットサンドは富良野産のベーコン&ズーチーと特製タルタル&トマトを、パンでギュッとやってジュッって挟みました。パンネはトマト&ガーリックベースのソースでピュッと絡めてみました。」(タナ)

鎌倉 彩 / 「deeper beauty parlor」スタッフ
「現地の直売で仕入れた親善素材で、お腹も空いたので何を作っても美味しいです…それより、わたしは「雲海テラス」に行きたかったです…(本気)…あと寒かったです。」
雲海テラスへの未練度 ★★★

はやい! うまい! はやい!
(そして寒い!)
アウトドアなんて、
手軽に作れる料理が
基本ッスね。(キラッ)

というわけで…今回は初開催となる合同キャンプは、「アウトドア」という非日常的な環境のもと、各店舗スタッフ間で普段とは違ったコミュニケーションを取ることで、各自との絆を一層深めることが目的。大型店が奔めく大通中心部において、それぞれ個性の異なる美容室3店舗が集まることで、交流を深め横のつながりを強化し、お店単位で大型店に負けないためのモチベーションアップを図ろうと考えました…というのは建て前で、ぶっちゃけただ楽しかっただけですけど…何か?

そもそもキャンプにハマり始めたのが5年前で、張り切って2年くらいかけてアウトドアグッズを揃えたのですが、最初の頃は道具を揃えたことに満足して、使うとしてもバーベキューをするくらい。料理を作ることはまったく関心がなく、完全に飲み専門でした。でも、年齢も重ねたせいか、ただ肉を食べるだけに身体が付いてこず、それならせかく道具も揃えたいし、ちゃんとしたアウトドア料理に挑戦してみようと思ってから火が着いた感じ…おひとりさま(ついでにメタボ)ですけど…何か?

今回は気候的にも寒いのは事前にわかっていたので、トマトベースで体があたまる料理をメインに調理しました。アウトドア料理なので、水をあまり使わず、手軽に作れる料理が基本になっています。今回はトマト! トマト! トマト!!!だらけのトマト祭だったので、次回はもバリエーションをもっと増やしてみたいですね…次回には絶対にあたたかい季節に開催します!

向き合える、 きっと変えられる

ひきこもり・不登校問題の深刻化が、今叫ばれています。

私たちは、未来を担う子ども達が、一人で抱え込み、悩むという状況をなくし
安心して笑顔で過ごせる社会作りを目標とし

子どもたちとその家族の視点に立った支援を念頭に、日々活動しております。

そのためには、問題それぞれへの正しい理解と高い専門性を持って支援を行うことが必要となります。

心に傷を抱える子ども達に向けて、一緒に考え、手を差し伸べることができる

人材の必要性は、ますます高まっています。

私たちは、一人でも多く、明るい社会生活を送ることができるように

幅広い支援活動を行って参ります。

※平成22年7月、内閣府より、ひきこもりの若者が70万人、予備軍を含めると225万人存在すると発表され、ひきこもり問題は、我が国で危機的な状況に瀕していると言われていました。

「ひきこもり支援相談士・不登校訪問専門員養成講座とは？」

ひきこもりや不登校状態にある、当事者とその家族に寄り添い、ともに展望を開いていく「ひきこもり支援相談士」「不登校訪問専門員」の養成を目的とし、回復の第一歩として中間施設(若者の居場所、グループホーム等)や、必要に応じて医療機関他、関連機関へ同行するなどサポートを行います。

誰でも手に取りやすい教本、資料集と安心できる資格認定システム。
お年寄りや障がいを持っている方でも、気兼ねなく受講することができます。

弊協会では、ひきこもりや不登校当事者ご本人やその家族への幅広いサポート支援を活動の目的としており、誰かの役に立ちたいという気持ちをより広げることができ、安心して受講頂ける教本、資料集の制作を行っております。また、受講期限も6か月間となっており、お仕事等で忙しい方でも安心して長期間にわたり自分のペースでじっくり勉強ができる資格システムとなっております。

こんな方々が
受講しています。

- 身近にひきこもり・不登校問題で悩む方がいる、又は家族に当事者を抱えている方
- 社会問題としてのひきこもり問題に興味関心があり、社会の為に活動したい
- 教育機関に勤務する教育関係者の方々(教師・塾講師・スクールカウンセラーなど)
- 医療機関に勤務する医療関係者の方々(医師・看護師・ソーシャルワーカーなど)

受講申込から
資格認定までの
5ステップ



上記の5つのステップが受講申込から資格認定までの流れとなっております。



一般社団法人 ひきこもり支援相談士認定協会
理事長 木村 榮治 (株式会社シンクプロジェクト代表)

所在地 〒066-0009 北海道千歳市柏台南1-3-1 千歳アルカディア・プラザ4F

TEL 0123-42-0500 FAX 0123-42-0557 E-mail info@khj-hsc.org URL http://www.khj-hsc.org

お問い合わせは
こちらまで

街も同じ時代を生きていて、毎日少しずつ変化し続けています。

そして、決してもう元へ戻ることはできません。

このマガジンで掲載されているのは、流行ではなく普遍的な情報です。

今現在のありのままを映し出し、その姿を形として残していくことが、

北海道カルチャーを築いていくことにつながると信じているのです。



website

<http://www.pilot-publishing.jp/pilot>

「PILOT magazine」(デジタル版)やウェブサイト限定の特別企画など、北海道カルチャーを独自に発信しています。



twitter

[pilot_tweet](#)

次号の発刊日や最新情報などを随時お知らせしています。

PILOT magazine October, 2011

staff list

produce&publication

Ryousuke Iwamura (Pilot Publishing co.,Ltd.)

website <http://www.pilot-publishing.jp>

design

EXTRACT

website <http://www.extract.jp>

Hayato Sakaida (bond graphic)

blog <http://bondgraphic.jugem.jp>

Hideki Akita (tootootoo)

website <http://akitahideki.com>

illustration

Koutarou Miura

website <http://8888.moo.jp>

photograph

Ryouichi Kawajiri (Kawajiri Shashinkan)

blog <http://r1kwjr.exblog.jp>

Asako Yoshikawa (photo works FREAK)

website <http://www.pw-freak.com>

title logo

Asami Sato

website <http://shumomo.jp>

special thanks

Akiko Saito (3110-ondo)

website <http://www.3110-ondo.com>

『パイロット』ではクリエイティブな才能を
幅広く募集しています。

『パイロット』では、クリエイター・フォトグラファー・
イラストレーター・ライターなど様々なクリエイター
を募集しております。地元カルチャーと一緒に築
いていきませんか?それぞれ下記、Eメールより
お問い合わせください。

お問い合わせはEメールのみで対応を致しております。
広告掲載のお問い合わせは下記まで御連絡ください。

pilot publishing co.,Ltd.
e-mail info@pilot-publishing.jp
url <http://www.pilot-publishing.jp>

Pilot Publishing co.,Ltd. ALL right reserved
©本誌掲載の写真・記事の無断複写・複製・転載・引用を固く禁じます。

